

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○生徒の夢をかなえる学校
		○地域と共に歩む学校
(2)		○教職員がやりがいを実感し互いに高めあう学校
		○夢の実現を目指して自律的にかつ誠実に学び続けることができる生徒
育みたい 児童生徒像	○変化や困難に対して柔軟にかつたくましく対応することができる力を有する生徒	
	○生徒の学力向上に努めるとともに、生徒の人権・健康・安全を守ることができる教職員	
ありたい 教職員像	○同僚性を発揮するとともに、互いに支えあうことができる教職員	

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<生徒、保護者> 学習指導・生徒指導・進路指導・部活動指導の充実 <地域> 地域活性化への貢献、卓越した取組とその成果の継承	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<家庭> わかる授業、学力の定着・向上、部活動の充実、希望進路の実現、安心して学べる環境 <中学校> 学校の様子、卒業生の近況報告、入試情報などの情報提供 <地域社会・企業等> 地域活性化への貢献、話題性によるイメージの向上	<家庭> 学校教育への理解・協力・支援、家庭での指導 <中学校> 基礎学力の定着、本校教育内容の理解 <地域社会・企業等> 教育活動への理解・協力・支援、学習成果を発表・活用する機会の提供
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学実績の向上のためには、効果的なカリキュラムの構築も必要だが、一番重要なのは教員の授業力向上である。生徒アンケートの実施等について検討されたい。</li> <li>・昨年度より自宅学習の改善があまり見られない。今の生徒は宿題等与えれば真面目にやるのではないか。工夫をお願いしたい。また、現状で満足するのではなく、一つ上の高みを目指す指導をお願いしたい。</li> <li>・生徒募集に関わっては、私学の専願や授業料完全無償化の影響で今後も厳しい状況が続くと思われる。松阪地区の公教育を維持していくためにも、関係者が課題をしっかりと共有するとともに、高進対(松阪市公立高校進学対策協議会)等から県教委への働きかけを今まで以上にしっかりと行っていく必要がある。</li> <li>・専門学科の生徒と比べ、普通科の生徒の目的意識は低いように思う。キャリア教育を充実させ、しっかりと自分の進路の道筋を考えられるようにしてやってほしい。</li> <li>・毎年の測量士の合格実績には感心する。ただ、公務員を目指すのであれば、経験上、土木施工管理技術者試験の方が将来的に役に立つと思う。</li> </ul>	

(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動については、部活動ガイドラインをふまえ、生徒や保護者の視点を大切にして全教職員が足並みをそろえて取り組んでいく必要がある。</li> </ul>
	<p>教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい大学入試の仕組みや企業が求める能力等の情報収集に努め、生徒の進路希望が実現できる指導体制の充実に努める必要がある。</li> <li>・「命を大切にする」「政治的教養を育む」教育については、学校教育活動全体で取り組むことの意義を再確認し、全校体制で取り組む必要がある。</li> <li>・探究学習については、研修等を実施し、これまでの課題を整理しながらより一層充実した取組となるようにする必要がある。</li> <li>・SPH 事業において構築された教育内容、シラバス、実習計画等にそって教育実践をすすめるとともに、定期的に検証を行い、教育の改善充実に努める必要がある。</li> </ul>
(4) 現状と課題	<p>学校運営等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル教育については、今後、生産経済科、環境創造科においても外国の生徒と交流する機会を持てるように工夫する必要がある。</li> <li>・相可ブランドをより一層確実に知っていただくために、学校説明会や出前学校説明会等の充実に図るとともに、積極的な情報発信を行う必要がある。</li> <li>・国の働き方改革の動向をふまえ、定時退校や部活休養日については、個人へ働きかける回数やヒアリング・指導・助言の内容を工夫するなどしてより強く改善を進める必要がある。</li> <li>・指導要領の改訂内容を含め、今後求められる教育については、情報収集に努めるとともに研修を深め、実施に向けての着実な準備を進める必要がある。</li> <li>・部活動の活動時間や指導方法等については、現状の課題を洗い出し、より一層適切な指導となるよう全教員の共通理解を図るとともに、部活動ガイドラインの徹底を図る必要がある。</li> </ul>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「生徒の夢をかなえる学校」に関して 「主体的・対話的で深い学び」の実施により、生徒がこれからの社会で必要となる学力や能力を確実に身に付け、地域社会やグローバル社会において活躍しようという意欲を持ちつつ希望進路の実現を果たしている。</li> <li>○「地域と共に歩む学校」に関して 各学科がそれぞれあるいは相互に連携を図りながら、本校ならではの特色ある取組をグローバルな視点を持って行い、地域の活性化に貢献している。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「教職員がやりがいを実感し互いに高めあう学校」に関して 授業・分掌業務・部活動指導等について、同僚性を発揮するとともに、協力・協同して取り組む体制が確立するなど、教育活動や学校運営を継続的に改善するための仕組みが機能し、活気のある明るい組織風土が醸成され、多くの生徒・保護者・職員が学校に満足している。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導	<p>○オンライン教育による学習保障を図ります。</p> <p>【活動指標】 各教科・科目でのオンライン教育の実施。</p> <p>【成果指標】 各教科・科目でのオンライン教育の実施率:100%</p> <p>○「主体的・対話的で深い学び」について、各教科・科目での充実を図ります。</p> <p>【活動指標】 各教科・科目での「主体的・対話的で深い学び」の実施。</p> <p>【成果指標】 各教科・科目での「主体的・対話的で深い学び」の実施率:100%</p>	<p>・特に、臨時休校中は Google classroom を使い、オンラインで LHR や授業を行った。学校再開後も、課題の提出等に利用した。</p> <p>・主に「課題研究」や DCT での学習活動でのグループ探究により、調べる、話し合う、まとめる、発表するなどの取組が行われている。</p>	◎
生徒指導	<p>○高校生として自主・自立の生活態度を養わせる指導の充実を図ります。</p> <p>【活動指標】 挨拶、時間厳守、マナー遵守など基本的な生活習慣の確立</p> <p>【成果指標】 基本的な生活習慣が確立している生徒の割合:90%</p>	<p>・基本的な生活習慣は概ね確立している。挨拶や時間厳守の点はほぼできているが、マナー遵守に関しては90%は切っているように思われる。</p>	
進路指導	<p>○3年生全員の進路希望実現を目指します。</p> <p>【活動指標】 進路希望調査に基づく企業訪問と情報交換の実施。小論文ガイダンスの実施等、文章指導の充実。入試改革についての情報収集、共有。</p> <p>【成果指標】 生徒の希望する企業との情報交換:100%。 小論文ガイダンス:1回以上</p> <p>○生徒の主体性を涵養し、生徒自身が能動的に進路実現を果たせるよう、3年間を通じたキャリア教育の充実を図ります。</p> <p>【活動指標】 総合的な探求の時間、LHR 等を活用した進路指導の実施。ポートフォリオの実施。インターンシップの実施。全学科での実力テスト実施。</p> <p>【成果指標】 進路学習の実施:各学年3回以上。</p>	<p>・1月28日現在、就職内定率97.8%、進学内定率91.0%。就職内定者の内、29名が公務員。小論文ガイダンスを3年生、2年生に各1回ずつ実施。各企業、学校等との連携を密にし、校内での迅速な情報共有を図った。</p> <p>・インターンシップは松阪商工会議所と連携し、2年生希望者対象に実施。総合的な探究の時間では、進路探究の内容を見直し、社会や学問への関心を深めるととも</p>	

<p>保健指導</p> <p>専門教育</p>	<p>ポートフォリオの実施:各学期1回以上</p> <p>○生徒が健康上の課題を認識し、生涯にわたって、より健康的な生活を送るための実践力を身につけるよう適切な援助や啓発を行います。</p> <p><b>【活動指標】</b> 感染症の予防啓発。ヘルスカウンセリングの充実。各種掲示物・配布物等による啓発、指導の実施。</p> <p><b>【成果指標】</b> 保健だより、カウンセリングだよりの発行:各年3回</p> <p>○資格取得や各種大会への出場を推進し、将来の進路に向けた学習意欲の向上を図ります。</p> <p>○他教科・他学科・地域との相互連携を図り、地域の活性化に貢献できる人材の育成を目指します。</p> <p>○食物調理科においては、SPH事業によって得られた成果をもとに教育実践を行います。</p> <p><b>【活動指標】</b> 他教科・他学科・地域との連携</p> <p><b>【成果指標】</b> 他教科・他学科・地域との連携の実施率:100%</p>	<p>に、文章力を育成する系統的な学習プログラムを構築した。ポートフォリオについては生徒自身が「学力の3要素」の観点から自己の取組みを振り返ることができるように、様式の見直しを進めている。</p> <p>・放送や配布物、掲示物を活用して、感染症予防啓発を行った。毎日の検温と健康観察カードの記入により、自己管理の習慣づけにつながった。保健だより発行17回、カウンセリングだより発行3回</p> <p>・コロナで中止になった大会等も多かったが、開催されたものに関しては、積極的に出場し、大会成績や資格取得で成果を上げた。地域連携についても新規に取り組んだものもあり生徒の学習意欲の向上に努めた。</p>	
-------------------------	--	--	--

### 改善課題

○学習指導

- ・オンライン教育を長時間行うことには、機器面、通信料、健康面等課題もある。
  - ・「総合実習」におけるオンライン教育をどのように進めるか検討が必要である。
  - ・全クラスが一斉に、通常の時間割通りにオンラインで授業を行える環境が必要である。
  - ・学校を欠席した生徒に対して、いつでも授業のライブ配信が行える環境整備が必要である。
  - ・生徒の主体的な学びや生徒同士の活発な意見交換を促すためにも、答えやヒントを与えすぎないことを意識する。
- このことにより、これまでの知識や教科書の内容をもとに考える力や、周りの生徒と対話し自主的に探究する姿勢を身につけさせ、深い学びの充実を図る。

○生徒指導

- ・制服の着方等の身だしなみやスマホの扱い（歩きスマホ等）などについて、生徒指導部を始め全職員で注意する姿勢を持つ。

○進路指導

・教職員の進路指導力向上のために、より一層の情報提供、研修体制の充実を図る必要がある。今年度の進路に関する取組みを振り返るとともに、本校の進路指導に関わる状況分析、今後への戦略・展望等を整理し、提示していく。

・今年度、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、1年生の大学見学会、2年生普通科全員での「京都16私立大学2020オープンキャンパス in 京都」等を中止せざるを得なかった。また、看護希望者が多数希望していた「一日看護体験」やその代替行事と考えていた「松阪中央病院オープンホスピタル」も中止になった。これらのことを踏まえて来年度の年間計画を作成する。特に、看護希望者が体験を積む機会を保障する必要性を感じている。

○保健指導

・引き続き、感染症予防に関する啓発活動を行うとともに、毎日の検温と健康観察の効率的な把握方法を検討する。

○専門教育

・地域連携の増加に伴う教職員の多忙化が課題となっている。今後の地域連携の在り方について検討する。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
情報発信	○中学生が本校への進学を希望するよう、情報発信を積極的に行います。 【活動指標】 中学校との連携、学校説明会の実施、ホームページの活用、関係者・報道機関への情報提供 【成果指標】 募集定員の充足率:100%	・特にホームページの活用に心がけた。(トピックス更新回数:R2年度(93回)、R元年度(37回)、H30年度(45回)) 前期選抜志願者数 普通科(84名) 生産経済科(45名) 環境創造科(43名) 食物調理科(42名)	◎
組織力の向上	○校内研修の実施により、教職員の資質能力を向上させるとともに、同僚性を育みます。 【活動指標】 校内研修の実施 【成果指標】 校内研修の実施:1回以上	・12月8日にコーチングの研修会を実施した。 1月29日にICT研修会を実施した。	
信頼される学校づくり	○事例研究・研修等を通して、教職員のコンプライアンスに対する意識を高めます。 【活動指標】 コンプライアンス研修の実施 【成果指標】 不適切事案の発生:ゼロ	・7月31日にコンプライアンス研修を実施した。「教職員の綱紀粛正及び服務規律の確保について」と研修資料<わいせつ行為>を活用した。	

<p>働きやすい 職場環境づくり</p>	<p>○健康で働きやすい職場環境づくりのために、総勤務時間の縮減に取り組みます。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ノー会議デー、ノー残業デー」(定時退校日):月2回</li> <li>・放課後に開催した会議の時間設定:60分以内</li> <li>・部活動休養日の設定:週1日</li> <li>・時間外労働時間(月平均、月45時間以上、年360時間以上)</li> <li>・休暇取得:平均年間休暇取得日数を前年度比で年1日増加。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設定した日の定時に退校できた教職員の割合:80%</li> <li>・会議時間60分以内の実施率:80%</li> <li>・計画した日に休養日を設定できた部活動の割合:80%</li> <li>・1人当たりの月平均時間外労働時間:30時間以下</li> <li>・月45時間を超える時間外労働者の人数:0人</li> <li>・年360時間を超える時間外労働者の人数:0人</li> <li>・1人当たりの年間休暇取得日数前年度比年1日増加達成率:100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定した日の定時に退校できた教職員の割合:70%</li> <li>・会議時間60分以内の実施率:40%</li> <li>・計画した日に休養日を設定できた部活動の割合:92%</li> <li>・1人当たりの月平均時間外労働時間:10.8時間(全職種平均)</li> <li>・月45時間を超える時間外労働者の人数:3~5人/月</li> <li>・年360時間を超える時間外労働者の人数:8人</li> <li>・1人当たりの年間休暇取得日数前年度比年1日増加達成率:26%</li> <li>1人あたり平均年休取得日数: R2年度(8.0日) R元年度(9.7日)</li> </ul>
--------------------------	---	--

### 改善課題

○情報発信

・各学科の特色ある教育活動を、引き続き、ホームページや報道機関に掲載するとともに、中学校訪問や高校生活入門講座等で中学生・保護者・中学校の先生に知ってもらおう。多気町のLINEの活用も町から提案いただいているのでその活用も検討する。

○組織力の向上

・引き続き、教職員の資質能力を向上させるための研修を実施する。

○信頼される学校づくり

・教職員の不適切な言動により、生徒を傷つけたり信頼を損ねることのないよう、引き続きコンプライアンス研修を行い不祥事の根絶に取り組む。

○働きやすい職場環境づくり

・過重労働がなかなか減らない。生徒・保護者の願い(進路希望、部活動の成績等)に応えるために、時間を惜しまず指導する教職員も多い。

・GIGAスクール構想の急激な前倒しで、一気にICT環境は進んだが、それに対応できる教員は限られており、一部の職員に負担となった。今後、教員以外でICT環境を推進・整備するためのICT教育支援員(サポート・スタッフ)がぜひ必要である。

・部活動についても、国からの事務連絡「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」にあるとおり、休日に教師が部活動の指導に携わる必要がない環境を、国、地方自治体、学校関係者がそれぞれの役割を果たすことにより構築する必要がある。

## 5 学校関係者評価

### 明らかになった 改善課題と次へ の取組方向

○教職員一人ひとりの「資質能力向上」、「授業力向上」のための取り組みを、学校全体としてさらに推し進めていくことを期待しています。そのためには現状の課題は何なのかを洗い出し、分析の上、どのような方法が効果的に教職員の「資質能力向上」、「授業力向上」に役立つのか学校全体、組織全体、各教科・各学科で活発な議論を交わし、教職員1人々が納得できる先進的な取り組みを推進してください。それが生徒一人ひとりの「生きる力」を育み、最終的には相可高校の教育力の評価につながっていくものと考えます。

○教職員の過重労働・時間外労働時間の軽減については、生徒を対象とする学校組織において、また限られた数の教職員、予算の中では大変難しい課題であり、これをやれば一朝一夕に解決できる課題ではないと考えます。地道に毎年一つ一つ出来る工夫・目標を学校全体として立て、それを実践していくことが今考えられる方法ではないかと思います。

○働き方改革と実務との矛盾の中で、本当によく努力を積み重ねていただいていると思います。まだまだ続くであろうコロナ禍の中での学校教育充実のためさらなる努力をよろしくお願いします。

- ・オンライン教育へのさらなる検討
- ・普通科生徒への目的意識をいかにつけ、伸ばすのか、進路実現への努力
- ・制服の着方、身だしなみ、マナーについて、全教職員一丸となった取組の継続  
コロナの標語にもある「大切な自分 大切な仲間 大切な相可高校のため」にも重ねてはどうか
- ・教職員の指導力向上やコンプライアンス研修等についても継続
- ・中学生・保護者・地域への情報発信が、より魅力的なものとなるよう、今以上の魅力ある学校づくりをお願いします。

○環境創造科に対して「2級土木施工管理技術検定」の資格取得指導を、令和3年度も引き続きお願いします。

- ・測量士および測量士補の資格取得は、「建設コンサルタント」の就職に有利と思われる。
- ・2級土木施工管理技術検定（学科試験）の合格者は、「建設業」の就職に有利と思われる。

在学時「2級土木施工管理技術検定（学科試験）」合格者は、相可高校環境創造科卒業後3年以上の土木施工に関する実務経験（建設業及び公務員土木技師等）があれば、卒業後11年間のうち連続2年間まで学科試験が免除され、実地試験の受験資格が得られるため、在学時の合格が必須である。今後、相可高校環境創造科で得た知識と技術で、就職してから経験年数を得て、2級土木施工管理技士、1級土木施工管理技士の資格取得を目指していただきたい。

・相可高校環境創造科卒業し、将来「公務員（土木専門職）」を目指すのであれば、漠然と公務員希望より、「就活はインターンシップから始まる」といわれるように、1、2年生時からより多く経験しておくことが、最上級生の際に進路に対しての不安から脱却し、自らが強く、将来の道筋を決めるのではないかと思われる。是非、国家公務員、地方公務員、建設業、建設コンサルタントへの経験をさせていただきたい。

○多気中学校は今後も地元高校である相可高校との連携をより一層推進することにより、「地域に根ざした学校づくり」に努めていきたいと考えているので、より一層のご理解とご協力をお願いしたい。

○生徒一人ひとりに対し、先生方が寄り添って指導してくれていると感じている。引き続きよろしくお願いします。

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>○学習指導<ul style="list-style-type: none"><li>・G I G Aスクール構想の実現による新たなI C T環境を活用し、対面指導と遠隔・オンライン教育を最適に組み合わせて学習を保障する。</li><li>・令和4年度から実施される新しい高等学校学習指導要領を踏まえた教育活動が展開できるよう準備する。(生徒に目指す資質・能力を育むために、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点で、授業改善を進める。)</li></ul></li><li>○生徒指導<ul style="list-style-type: none"><li>・制服の着方、身だしなみ、マナーなどについて、全教職員一丸となった取組を継続する。</li></ul></li><li>○進路指導<ul style="list-style-type: none"><li>・本年度の進路指導に関わる状況を分析し、今後の戦略・展望等を整理し、推進していく。</li></ul></li><li>○保健指導<ul style="list-style-type: none"><li>・感染症対策を徹底する。検温など感染症対策に必要となる物品については、「感染症対策等の学校教育活動継続支援事業」の経費により購入する。</li></ul></li><li>○専門教育<ul style="list-style-type: none"><li>・地域社会や関係機関と連携・協力して、地域の人材資源等も積極的に活用し、特色・魅力ある教育活動を行う。</li><li>・資格所得、インターンシップにも、引き続き取り組む。</li></ul></li></ul>
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>○情報発信<ul style="list-style-type: none"><li>・教育政策課が実施したアンケートにより、高校を選ぶときに、高校生活入門講座や学校説明会を最も参考にすることが明らかとなった。来年度は、それらの機会により本校の特色や魅力が伝わるよう実施内容を検討する。</li></ul></li><li>○組織力の向上<ul style="list-style-type: none"><li>・I C Tはこれからの学校教育を支える基盤的なツールとして必要不可欠であり、I C Tを日常的に効果的に活用できるよう職員研修を行う。</li></ul></li><li>○信頼される学校づくり<ul style="list-style-type: none"><li>・不祥事根絶については、現在、県教育委員会が、外部の方や関係者の意見を徴収しながらまとめいてる対応策にのっとり、本校も取組を行う。</li></ul></li><li>○働きやすい職場環境づくり<ul style="list-style-type: none"><li>・教職員の業務負担を軽減するため、新たな職であるスクール・サポート・スタッフや教育相談員、G I G Aスクールサポーター、I C T支援員等の人材を積極的に活用する。</li><li>・会議時間を60分以内で終わるよう、資料の事前配布や提案の仕方を改善する。</li></ul></li></ul>